

学校点描

週末の温かさで一気に桜も咲き始めました。桜の下で記念撮影をする学年もあります。

《S中学校》

NO.2 H30. 4. 23

担当：教頭

14日（土）のPTA総会へのご出席ありがとうございました。総会は、盛りだくさんの内容となり長時間の会議にお付き合いいただきありがとうございました。出席者は84名と全体の1/3くらいでしたが、今年度の学校の教育方針や教職員として心がけたいこと、また家庭や地域と協働で取り組みたいこと等をご理解いただき本当にありがたい気持ちでした。学校は生徒ひとり一人をしっかり引き受けて教育していきます。どうぞ、家庭で引き受けること、地域で引き受けることについては、よろしくお願いします。

さしあたって29日（日）には運動会という大きな行事があります。この行事は学校だけではなくてもしようがありません。家庭や地域からの協力が必要不可欠です。学校・家庭・地域の最初の協働活動となるでしょう。秋に行う他地区と違い、春に行う最上地区の運動会はそんな意義もあるのかもしれない。

4月のドキドキ

運動会組練習は、生徒たち自身が計画を立てて行っています。先週は体育館や音楽室、グラウンドと3組がそれぞれ分かれて応援合戦の踊りやフォークダンスの練習をしていました。今の生徒たちにとって、今流行りの激しいダンスと違ってフォークダンスはやや勝手が違うようです。上級生が見本を見せながら、ゆっくりとしたこのダンスを下級生に教えています。わたしはその間、校舎を巡視しています。各教室をのぞくと、真っ白な雑巾の山が各クラスの棚の中に積まれているのが見られました。雑巾は学校生活ではいろいろな場面で必要です。雑巾の提供のご協力ありがとうございました。

真っ白に積み重ねている雑巾の山を見ると、自分の小学校のときの思い出を思い出します。



わたしが小学校5年生のクラス替えの時、担任として教室にやってきたのは、おっかなそうな男の先生でした。5年6組の44人。学年全部で270人近く、全校で1000人以上の児童がいたのですから、クラス替えになる度、周りには、知らない人ばかり。ただでさえ、不安だというのに、担任の先生は、ブスーとしたおっかなそうな人。もう、4月のドキドキは最高潮でした。挨拶もそこそこに、おっかなそうな男の先生が、明日まで持ってくる物を言います。

「明日まで、掃除で使う雑巾を、1人1枚持ってくるように。雑巾は、お家の人から、縫ってきてもらいなさい。みんな、それができるね。」

わたしが子どもの頃は今と違って、雑巾なんてお店で売っている物ではありませんでした。各家庭で縫ってこしらえる物だったのです。おっかなそうな先生が最後に言う、“できるね”という台詞は、“約束だから、絶対守れよ！”と聞こえてしまうんです。第1印象は、大切ですね。

「どうしても、無理だという人は、手を挙げて！！。」

ふと見ると、隣の女の子が手をすくーと挙げました。なんと、勇ましい、なんと無茶苦茶なと思

いましたね。でも、その女の子の目は、凜としているんです。

「あの、先生！！わたしのお母さんは、今、病気で入院しているんです。祖母も目が悪くて、縫い物はできません。わたしの手では、明日までは無理だと思います。」

なんと、ハッキリ、そしてなんと自分の思いを上手に伝える子だろう。隣の女の子を見て、なんか自分と住んでいる世界が違うような気がしましたね。

女の子に対して、先生はなんて言うのか、43人全員、水を打ったような静けさです。

「じゃあ、誰か、その子の分まで、1枚縫ってきてくれ。以上！」

みんな初めて会ったような人ばかりで、その子のことなんて知らない人ばかりです。みんなキョロキョロ、どうしていいのかわかりません。その女の子も、申し訳なさそうに下を向いてしまいました。

わたし達教師も、転勤族ですが、新天地への移動は何度行っても、ドキドキの緊張感ですね。きっと、生徒たちも新しいクラスの慣れない人間関係の中で、緊張感もそろそろ疲労感に変わってきている頃ではないでしょうか。今は、同学年の子ども同士の付き合いだけでなく、異学年の縦の関係の中でも活動をしていますから、その中で人間関係づくりの学びをたくさんしています。一方で、精神的な疲労もたまってきているかもしれません。そんな生徒たちの状況を知っていると、大人は先回りしながら、子ども達の精神的なストレスの状態を考えてあげることができます。

小学校の新しいクラスが決まった日、家に帰ると、雑巾を明日まで縫って持っていくことを母に伝えました。でも、あの隣の女の子のことが頭を離れません。全然話をしたことのない子の雑巾を持っていくと、変におもわれやしないか悩みました。でも、思い切ってもう1枚、母に追加のお願いをしたんです。自分の勇気と、あの女の子の勇気を天秤にかけて考えたんですね。

次の日、新しい学級の5年6組に行くと、女の子の机の上に、40枚以上の真新しい雑巾があがっていました。わたしも、雑巾の山の上に、母が縫った雑巾をのせます。

「ありがとう。」女の子がにっこり笑顔で返してくれました。

教卓では、あのおっかなそうな先生が、やさしい笑顔の先生に変わっているんです。

4月のドキドキの後に来たのは、やさしさのニコニコでした。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp